
デモン × ジャスティス

夏之空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

デモン×ジャスティス

【Nコード】

N3741BA

【作者名】

夏之空

【あらすじ】

昔から、数多くの民話や伝承が語り継がれる街――夜東市。幽霊や妖怪の目撃情報や不思議な体験談が後を絶たないこの街では、怪物から人々を助ける奇妙な悪魔の存在が噂されていた。そんな中、人間に紛れて生活している悪魔の少年古村尚人のもとに、小学生の女の子が訪ねてきてこう言った。「わたしを先輩のパートナーにして下さい！」お人好しでどこか頼りない悪魔の少年と純粋で正義感の強い見習い退魔師の小学生が織り成すロリコン……………いや、アクションラブコメディ！。主人公の変身した姿が、仮面でライダ

ーなにーローに似ているのはご愛嬌。極力スルーの方向で。

プロローグ

昔から、数多くの民話や伝承が語り継がれる街――夜束市。古い町並みと新しい街の風景が混ざり合うこの街では、現在も幽霊や妖怪の目撃情報、不思議な体験談が後を絶たない。そして、その中でも特に奇妙なのが、

怪物から人々を助ける悪魔の存在。

神代美羽は、正義感の強い子だった。
だから、4年1組の教室で一緒にお弁当を食べていたクラスの子から、

昨日の夜、塾の帰りに狼男が人を襲っているところを見た――
！。

こんな話を聞いた時は、自分が何とかしなきゃと気合いが入った。
それなのに……それなのに……。

空に浮かぶ満月の下、神代美羽は住宅街の道を必死に走る。額に

は大量の汗。息も苦しい。天啓学園初等部の制服は汗で肌に張り付いている。それでも、神代美羽は走るのをやめるわけにはいかない。後ろから追いかけてくる人狼の足音。^{ワウルフ}

神代美羽は、早く1人前の退魔師になりたいと思っていた。家での訓練も頑張ったと思う。でも、現実は厳しかった。

初めての实战で、想定外のこと起きたのだ。

「退魔術が効かないなんて……」

まさに悪夢だ。神代美羽は目に涙を浮かべた。でも、足は止めない。ゆっくり近づいてくる足音。今止まったら殺されてしまう。

住宅街の道をひたすら走る。交差点の角から、誰かが出てきてぶつかった。

「きゃっ！」

「うわっ!？」

お互いに尻餅をついた。そのままの状態で、神代美羽はすぐに謝る。

「ごっ、ごめんなさい」

街頭の光で浮かび上がった相手の姿は、天啓学園高等部の制服を着た優しそうな感じのお兄さん。

「痛てて……」

お兄さんは痛そうにお尻をさすりながら、

「いや、こちらこそ、ごめ……ん？」

何故か頬を赤くした。視線も釘付けになったみたいに、どこか一点を見つめている。

「えっ？」

それで、神代美羽は自分が脚を開いていることに、ようやく気付いた。天啓学園の制服のスカートは短い。お兄さんに下着が見えてしまっている。

「きゃあっ！」

慌ててスカートの端を押さえた。火が出そうなくらいに顔が熱くなる。

「ご、ごごご、ごめん！ ホンツとごめん。そんなつもりじゃ……」
必死に謝ってくれるお兄さん。でも、どうしていいかわからない
ぐらい恥ずかしかった神代美羽は、俯いてその場をやり過ごそうと
したのだが。

背後から聞こえてきた足音で、「ハッ」とする。

そうだった。こんなことしている場合じゃない。振り向くと、人
狼がこちらに近づいてくる姿が確認出来た。

どうしよう。どうしよう。早くお兄さんを逃がさないと。このま
まじゃ、2人とも殺されてしまう。神代美羽は、体中から血の気が
引いていくのがわかった。

「まったく、晩飯を買いに行くだけのつもりだったんだけどな」

お兄さんの呟く声がして、頭にポンつと軽い衝撃。驚いた神代美
羽が向き直って視線を上げると、すでに立ち上がっていたお兄さん
がとても優しい瞳をして頭を撫でてきた。

「もう大丈夫だから安心して」

意味がわからずにキョトンとしている神代美羽の頭から手を離す
と、お兄さんは人狼を睨み付け、

「俺が、この悪夢を終わらせる！」

両手を広げて腰の横で構えた。お兄さんの腰に、機械的な長方形
の白いバックルが出現。ベルトの左側に備え付けているカードケー
スのような箱から、1枚の赤いカードを取り出してバックルにスラ
イドさせる。

「変身！」

オーバーチェンジ
『超変身——ッ！』

電子音声で鳴り響いて、お兄さんは眩い光に包まれた。一瞬で光
は収束し、再び現れたお兄さんは別の姿に変わっていた。

黒いボディスーツみたいな手足に、胸には生物的な赤い装甲。蝙
蝠をシルエットにした感じの頭部は、フルフェイスマスクを思わせ
る。そして、羽の形に合わせた黄色の複眼。全体的にどこか禍々し
いその姿は、まさしく悪魔。

「悪魔のヒーロー」

夜束市で、悪い魔族から人々を守っている正義の味方に違いない。憧れの存在を目の前にして、頭が真っ白になりそうな神代美羽を尻目に、悪魔は疾風の如く駆け出した。

一瞬で間合いを詰められた人狼が慌てて腕を振り回す。だが、悪魔は襲い来る相手の攻撃を素早い動きで次々とかわして拳や蹴りで反撃。攻撃を喰らいながらも、相手の体を切り刻もうとする人狼の鋭い爪を制していく。

「すごい……！」

自分の為に戦ってくれている悪魔の姿に、神代美羽は、胸の鼓動が高鳴るのを感じた。本当にドキドキする

僅かな時間で何度も繰り返される攻防。悪魔の拳を受けた人狼が、舗装された地面を転がり立ち上がった。しかし、体はフラフラと揺れていて、もう限界のようだ。

それを見た悪魔が、

「これで終わりだ！」

カードケースから、1枚のカードを取り出してバツクルにスライ

ドさせる。

『必殺技――悪夢の破壊』
クリティカル
ナイトメアブレイク

電子音声が鳴り響き、体勢を低くした悪魔は、力を解放するようにして空高く舞い上がった。満月を背景に空中で蹴りのポーズを作り、人狼に向かって急降下。悪魔の必殺キックが人狼に炸裂する。

凄まじい勢いで後ろに吹き飛び地面を転がった人狼は、もがき苦しむようにして立ち上がると爆発した。

「ふうっ」

揺らめく炎に照らされた悪魔が変身を解除。天啓学園高等部の制服を着た優しそうなお兄さんの姿に戻った。

「はうっ！」

先程人狼を倒したような圧倒的な強さは感じない。でも、これはコレで、

「素敵かも」

自分を助けてくれた悪魔のヒーローに、神代美羽は切ないけど温かい変な気持ちを覚えた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3741ba/>

デモン×ジャスティス

2012年1月9日19時56分発行